

# 第 1 分科会要旨

# 第 1 分会场摘要

## 持続可能な社会の発展を促す児童生徒中心の教育実践

### —山東省地域学校カリキュラムの授業実践を通して—

山東省単県第一中学校 教諭 魏 衛霞(Weixia WEI)

概要：近年、持続可能な社会の発展がますます注目されている中、持続可能な社会はどのような社会であろうか。これは、「現代の人の欲求を満たしていると同時に、未来の時代に生きていく人々の生存にも影響しない。」という新たな社会発展のモデルというものである。ここでは、持続可能な社会の発展の中で、「人間」の持続可能な発展ができるかどうか肝心なことであると言うまでもない。「人間」の持続可能な発展を促すには、人々の発展意識の有無と「人間中心」の意識が必要となり、その人々の意識を育つのは教育でしかない。教育者としての私たちは、その重要な責任と義務を担っている。しかし、現在の学校教育では、「児童生徒中心」として教育はまだ大きな課題が残っている。そこで、筆者は「児童生徒中心」として教育活動をどのように展開し、子ども自身の内的な欲求や個々の子どもの差異等に注目し、子どもの持続可能な発展をどのように成し遂げていくのかを山東省の事例からみていくことにする。

筆者の学校である山東省単県第1中学校では、「児童生徒を根本とし、児童生徒を中心とする」教育理念のもとに、「問題学習+協働交流」という授業形式を展開していた。その理論的な基礎は、David

Pawl Ausubel(デヴィッド・オズベル 1918-2008 アメリカ認知心理学者)の「先行オーガナイザー」論(新しい知識を学ぶ際、先に学習者に紹介した既習の知識や学びやすいものなどのもの中、また高度で総括的な学習材料でもある。これらの知識や材料が新旧知識の学びの架け橋となっており、「先行オーガナイザー」と呼ばれる)である。「先行オーガナイザー」は、学習目的へ導き出す材料であり、既習の知識と新しい知識をつなげる役割を果たしており、授業前の予習の形式で表れている。もう一つの理論は、Lev Semenovich Vygotsky(レフ・ヴイゴツキー 1896-1934 前ソビエト心理学者)の「最近接領域」(Zone of proximal development)論である。この論は、子どもの発達に2つのレベルの学習発達があつて、1つ目は子どもの現在の発達レベル—子どもが独自で問題解決できるレベルである。2つ目は子どもの可能な発達レベル—学習から得た潜在力)である。両者の間にあるのが「最近接領域」である。この論は「探求型の授業」から表れている。

上記の考え方と理論のもとに、「Teenage Life」に関する問題解決の授業を構成した。内容は、欧米の国の高校生活を描いた内容である。児童生徒に欧米の青少年の高校生活を理解させるために、自分たちの高校生活から導入することで、欧米の青少年生活との差異に気づき、欧米の青少年の生活様式や思い、考え方などを理解ができるようになった。このように構成することによって、

「児童生徒を中心とした」考え方のもとに、異なる課題で児童生徒に思考を駆使し、協働と交流の活動を取り入れ、児童生徒に新しい知識を学ぶと同時にその知識を超えた文化への意識をもつようになる。それによって、児童生徒の自主性や積極性を培い、児童生徒の知識に対しての認識構造を再構成する。協働と交流の活動では、他者とのかかわりやチームワークによる協調性も養うことができる。授業の終始、児童生徒の姿や気持ち、思いを注目しながら、「児童生徒中心」とした教育活動が可能となり、児童生徒が持続可能な発展を成し遂げることができるのである。

しかし、文章内容を完全に理解し、東西文化の差異を理解し表現することは不十分で、活動のための活動であったため、文章内容に内在する文化的な差異を見ることができなかった。また、授業の中で個々の児童生徒の個性を生かすことがあまりできなかった場面等もあったため、「児童生徒中心」とした本来の思いには至らなかったもある。これは今後の課題として追究していきたい。

いずれにせよ、「児童生徒中心」とした理念や思いを持つ私たちの教育者は、このような考え方で授業から児童生徒に体得し、持続可能な社会の発展を成し遂げていくことが可能となる

と思われる。これは、私たち教育者にとって、有意義な事業であり、社会全体的に協力し、共に成し遂げていきたい。

(創価大学教育学部 董 芳勝 訳)

## “以生为本”推动社会可持续发展

### —中国山东县域学校课堂教学实例分析—

山东省单县第一中学 教师 魏 卫霞 (Weixia WEI)

摘要：近年来，对社会可持续发展的呼声越来越高。可持续发展社会是一种“既能满足当代人的需要，又不对后代人满足其生存能力构成危害”的新型社会发展模式。从界定上可以看出，社会的可持续发展本质上是“人”的可持续发展。若要实现人的可持续发展，就需要培养和提高人们的发展意识和“以人为本”的意识，而提高意识需要教育。作为教育工作者，有责任有义务承担起这个教育重任。那么，如何教育学生“以人为本”是摆在教育者面前的重大问题。在本人看来，教师的教育活动应该体现“以学生为中心”，关注学生的身心发展，关注学生的内在需求，关注学生的差异，关注学生的长远发展。

作为一名来自中国山东省菏泽市单县的教师，本人依据学校的教学思想和自身的教学理念，努力做到“以生为本”，促进学生健康快乐地学习和成长。我校秉承“以生为本，以学生为中心”的教学思想，开展“问题驱动+合作交流”的课堂模式。教学思想的理论基础有两个：一是奥苏贝尔的“先行组织者”理论。先行组织者是先于学习任务本身呈现的一种引导性材料，能清晰地与认知结构中已有的观念和新的学习任务关联。该理论主要以“课前预习案”的形式表现出来；另一个是维果茨基的“最近发展区”。该理论认为：学生的发展有两种水平，一种是学生现有的发展水平（学生独立活动时所能达到的解决问题的水平），另一种是学生可能的发展水平（通过教学所获得的潜力）两者之间的差异就是最近发展区。该理论主要以“课堂探究案”的形式表现出来。

结合教学思想和理论指导，设计了一节有关 Teenage Life 的课题。文章内容是对西方高中生生活的描述。为了引导学生深入了解西方青少年的高中生活，先从自身高中生活联想，由己推他，从而学习中西方生活和文化的差异。课堂设计遵循了“以生为本”思想，用不同的问题驱动学生思考、合作与交流，使学生在交流的过程中既学习了文化知识，又有了跨文化意识。通过活动培养学生学习的自主性和积极性，不断完善学生的知识建构。小组合作与交流培养学生的合作意识与团队精神。在整个教学过程中，始终关注学生的学习状态以体现“以生为本”的育人思想。

但是，仍存在着一些不可避免的问题。首先，对文章内容把握不够全面，中西方文化差异讲解地不够深入，学生为了活动而讨论，从而忽略了文章内在的文化差异。其次，课堂上不能够完全照顾到学生的个体差异，与理想中的“以生为本”还存在着差异，这需要师生共同努力去实现。

总之，教育工作者通过“以生为本”的理念传递给学生一种“以人为本”的信念，从实现人的可持续发展到实现社会的可持续发展。这是一项重大而有意义的工程，需要全社会凝聚合力，共同努力去完成社会的可持续发展。

## SDGs を自分ごととして考える対話型授業の実践

静岡県伊豆市立修善寺東小学校 矢野 淳一(Junichi YANO)

### 1. はじめに

世界市民は、智慧と勇気と慈悲をもって自他共の幸福をめざし、確かな足場を、最も身近な『郷土』に置き、『世界』という地球規模の地平に、人類益を常に考えて行動していく人である。

現実的な取り組みとして、今、自分が置かれている足場で、自分ができるところを考え、行動に移していく人である。

創立者池田大作先生は、「世界市民教育は、どんな場所で起きた出来事にも、同じ人間としての眼差しをもって向かい直す『縁』となり、問題解決への行動の連帯を育む『縁』となるものです。それは、グローバルな課題を人間一人一人の生き方に引き寄せながら、その人自身が持つ可能性を開花させていく源泉にほかなりません。」と、自他共の幸福を目指す生き方を通して人生の喜びを見出し、世界市民の育成を推進されている。

### 2. 地域と世界の往還作業を通して

池田大作先生は、教育者であり、地理学者でもある牧口常三郎が著した「人生地理学」の相依(そうえ)・相関性の原理を通して次のように言われている。

「世界の課題に目を向けるとともに、確かな足場として地域で行動することは、地球的に考え、発想していくための出発点となり、基盤となるものであり、地域と世界の往還作業こそが、一つの大切なポイントであると考えます。」と、世界の課題に目を向けるとともに、現実に根付いた行動が大切であり、身近な地域から自分自身ができる貢献の行動を起こすことの大切さについて述べている。

SDGs は世界の民衆の声を意思決定に反映してできた課題であり、民衆が主体となって達成を大きく促進していく連帯を必要としている。

今、身の回りで起きている課題と世界で起きている課題を結びつけ、自分の今いる場所から貢献へとつなげる世界市民教育の広がり、SDGs 解決に向けての大きな推進力となるのである。

### 3. 生活科に SDGs を包含した授業計画

2 年生活科「大きくなった自分のことをふりかえろう (27 時間配当)」の単元では、小学校に入学してから約 1 年半の自分自身の成長を振り返る学習を行っている。「多くの人々の支えによって自分が大きくなったこと、自分でできるようになったことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようになること」が目標である。

この単元において、SDGs4「質の高い教育を」と関連付けてカリキュラム開発を行うことによって、学校で学ぶことは当たり前のことではなく、学びを通して成長できる場であることを子どもたちが気付くことができるようにしたいと考えた。

子どもたちにとって、遠い世界で起きている問題を自分の問題に置き換えることは困難なことである。SDGs における問題をどのように子どもが自分ごととして置き換え、自分の身近な生活と関連付けることができるか考え、カリキュラム開発に取り組んだ。

### 4. 体験や対話型授業を通じた授業実践

JICA の広報誌 mundi に掲載されていた「アイシャちゃんの日」という西アフリカに住む同じ年代の子どもと自分の生活を提示し、子どもたちが親しみを持つことができるようにしたいと考え

た。ここに書かれている日課は、アイシャちゃんが、自分たちと同じように家族と暮らしたり、学校に行ったりしている様子がイラスト入りで書かれている。子どもたちが、どの国に住んでいる誰もが自分と同じように生活していることに気づき、子どもたちが共感をもつことができるようにしたいと願い計画を立てた。

更に、西アフリカに住むアイシャちゃんたちが、自分たちと同じように生活をしている中で、学校に行けなくなった理由をイラストや写真を見て考え、対話を通して学ぶ場を計画した。アイシャちゃんたちが学校に行きたくないわけではなく、戦争で学校がなくなったり、親が亡くなって幼い弟や妹の世話をしなくてはいけなくなったりしたことを学習できるようにしたいと考えたからである。

更に、文字が理解できないと生活する上で困ることについて文字が読めないペットボトルの液体を飲む体験を通し、本が読めなくなることや手紙が書けなくなること等、字を学ぶことの意味について気付くことができるように授業計画を行った。

ここでは、その授業実践での子どもたちの学びについて紹介していきたい。

## 基于SDGs 思考的对话式课堂实践

静岡県伊豆市立修善寺东小学教师 矢野 淳一(Junichi YANO)

### 1. 背景

世界市民是这种人。他们充满智慧与勇气，胸怀慈悲，以自己与别人的共同幸福为目标。他们将“故乡”作为立足点，放眼世界，以全球规模思考，并采取有利于人类利益的行动。

世界市民是这种人。他们无论身在何处，都会思考自己在这个地方可以做些什么，并将想法付诸于行动。

世界市民以自己与别人的共同幸福为目标，通过这种生活方式来发现人生的喜悦。创价大学创办人池田大作推进着世界市民的培养。他说“世界市民教育教导我们，无论在什么样的环境发生什么样的事，都要想着对方与我一样都是人类，将发生的事看作是缘分重新面对，这份缘会带领我们解决问题。世界市民教育将全球规模的问题具体化，使之与每个人的生活方式相关联。世界市民教育也是使每个人拥有的可能性开花结果的源泉。”

### 2. 地域与世界的往返作业

既是教育家，同时也是地理学家的牧口常三郎在著作《人生地理学》中讲述了相依，相关性的原理。池田大作先生引用这个原理这样讲到：“关注世界问题的同时，明确自己的立足点，从实际出发，在地域采取行动是思考世界问题的出发点与基础。我认为地域与世界的往返作业正是重要的关键点。”他陈述了关注世界问题的同时，从实际出发，力所能及地为地域做出贡献的重要性。

SDGs 是反映了全世界民众意见的课题，民众作为主体团结一致对于促进课题的解决是十分必要的。

将现在自己身边所发生的问题与世界中发生的问题相关联，为自己所在的地域做出贡献。世界市民教育是解决 SDGs 课题的巨大的推动力。

### 3 包含了 SDGs 的生活科教学计划

在 2 年级生活科“回顾长大的自己（27 课时）”这一单元中，让孩子们回顾自己从小学入学以来大约一年半时间里的成长。单元目标是“明白由于大家的帮助，自己才能长大并变得能干。心怀对帮助自己生活与成长的人的感激，从此以后带着对成长的希望，积极主动地生活”。

我认为在这一单元中，通过开发与 SDGs4“优质教育”相关联的课程，可以使孩子们意识到在学校学习并不是理所当然的事，使孩子们意识到学校是通过学习获得成长的地方。

将遥远的世界中发生的问题当作自己的问题去思考对于孩子们来说是困难的。我在想怎样才能让孩子们切身实际地思考 SDGs 中的课题，与自己的实际生活联系起来呢？我致力于开发这种课程。

### 4. 体验型授课和对话型授课的实践

JICA 的杂志 mundi 上刊登了一篇关于西非同年代孩子生活的文章《爱香的一天》。我想通过展示爱香的生活和孩子们的生活，可以让孩子们产生亲切感。《爱香的一天》中

以图文形式讲述了爱香和自己一样与家人住在一起，和自己一样去学校上学。我希望通过这个计划可以让孩子们意识到无论住在哪个国家里的人都和自己一样生活着，希望让孩子们产生共鸣。

同时，我计划通过让孩子们看图和照片来思考为什么爱香和自己一样生活着，却不能继续上学了的理由，通过讨论来学习。爱香和其他西非的孩子不是不想去上学，而是由于战争没法去上学，或者由于家长的死亡不得不照顾年幼的弟弟妹妹。

同时，通过让孩子们体验喝写着不认识的水瓶包装的水，让孩子们意识到不识字会在生活中造成困难，从而认识到认字的意义。

我在这里想介绍实践课中孩子们得到的学习体验。

(创价大学教育学院 4 年级 董 玉 翻译)

## 中国の教員養成機関における教員養成の特色概要

海南師範大学初等教育学院 張 玉成 (Yucheng ZHANG)

首都師範大学初等教育学院 李 碩 楠 (Shuonan LI)

首都師範大学初等教育学院 王 潇 (Xiao WANG)

2018年4月21日より、中国政府は海南省全島の自由貿易実験区とし、世界的な交易基地としての環境を整えようとしている。これは、海南省にとって新しい挑戦であり、飛躍的な発展の契機となると考えられる。そしてそのためにも、発展性を保ちながら、持続可能な発展を促す人材の育成が必要となる。海南省の人材育成を担う公教育にはより一層高い期待が寄せられており、「教育観を改め、優れた教員チームを育・編成し、一人ひとりの子どもにより良い教育を提供しよう」との教育改革を進めている。

一方、海南省の農村の教員は、都市部に比べ少なく、教員たちの平均年齢も高い、若手教員の活力が欠けている。しかも、多くの教員は伝統的な教育観に留まっており、変革の必要性を感じる場面が少ない。そこで、海口市にある海南師範大学は教員養成をしながら、教員研修も担い、「双五百工程」(それぞれの500人育成プロジェクト)を展開している。これは、毎学期、500人の教員を育成と並行して500人の農村の現職員を研修し、500人交換制度のような取り組みを行っている。これに合わせて初等教育学院では「頂崗实习」(置き換え実習)計画を実施している。この海南師範大学の「双五百工程」と初等教育学院の「頂崗实习」は、ある程度海南省の農村の教員不足の解消に資しており、現場への実習経験をもつ師範生はこれからの教員としての基礎基本を身に付けるとともに、研修に参加した現職教員は自分の教授法や教育観などを改め、自身の教員としての資質・能力を高めている。海南師範大学のこの取り組みは、海南省の教員チームの質を高めると同時に、多くの若手教員の養成に役立っており、教員養成の持続可能な発展を確かにしている。

哈爾濱学院の小学校教育系の教員養成も持続可能な発展という理念に基づき教育活動を展開している。まず、学生中心の視点から、未来の教員になる個々の学生を、「能教、善教、乐教」(教えることができ、上手に教えることができ、楽しく教えることができる)「童心素养」(児童の心をもつ)小学校の教員養成を目指している。次に、地域の要請に答えるために、「一专多能型」(多技能を持つ強い専門性)の教員育成を行い、「跨学科发展」(教科間応用できる)教育観をもつ教員を要請していく。最後に、教員の実践力を確実に身につけるために、豊かな実践から学ぶ過程を通じて「四位一体」(4つの要素が一体になる)の人材育成モデルを構築し、「G-U-S」の教師教育連盟を作り出している。これは、地元の小学校と一緒に研究の場を作り、附属小学校の資源を活用し、経験のある教員をゲストティーチャーとして、教員養成の課程に取り入れている。このように、教員養成課程では、地方の行政と高等教育及び小学校の現場と一体になって、教員養成を行っている。そこで、見学、実習、研究の結合を強化し、「综合培养、发展专长、全程实践、协同育人」(総合的に育成、得意の領域を生かし、実践の溢れる過程、協同的に人材を育成する)モデルを構築し、地方の特色に合った初等教育を行っている。

キーワード：双五百工程 頂崗支教 一专多能 特色のある過程

(創価大学教育学部 董 芳勝 訳)

## 中国师范院校教师培育的特色路径概述

海南师范大学初等教育学院 張 玉成 (Yucheng ZHANG)

首都师范大学初等教育学院 李 硕楠(Shuonan LI)

首都师范大学初等教育学院 王 潇(Xiao WANG)

**摘要：**2018年4月21日，中国政府决定支持海南全岛建设自由贸易试验区，打造世界一流的营商环境。新的机遇带来新的挑战，海南在快速发展的同时，保障发展的协调、可持续，就需要大量的具有可持续发展观念的人才，而人才的培养离不开教育，这就对海南的教育者们提出了更高的要求：革新传统的教学观念，优化教师队伍结构，保障每名学生都能接受良好的教育。但由于中国人口众多，海南省的乡镇教师较之于城市来说相对较少；并且乡镇教师的年龄相对偏高，教师队伍缺少“新鲜血液”；部分教师受困于传统的教育观念，不能很好适应当前的教育可持续发展的理念等。鉴于此，位于海南省海口市的海南师范大学就承担了培养新一代教师的责任，提供了师范生培养与在职教师培训相结合的“双五百工程”。双五百工程即每学期在全校师范专业中选取五百名师范生与五百名乡镇教师进行置换，师范生代替乡镇教师承担教学任务，乡镇教师来到海南师范大学进行基于新理念的教育教学培训。在海南师范大学中，承担小学教师培养的初等教育学院积极响应学校的号召，在“双五百工程”的基础上设立“顶岗实习”计划。海南师范大学的“双五百工程”和初等教育学院的“顶岗实习”计划都旨在缓解乡村教师数量短缺的问题，师范生的真实课堂环境的教学经历也对其日后成为一名真正的教师打下了坚实的基础；乡村教师也可以利用这一机会，不断深化自己的教育与教学知识与技能，转变可能存在的传统教学观念。这一举措也优化了海南省的教师队伍建设，提升了有经验教师的水平，也引领了更多年轻教师的培养与发展，使得教师培养形成了可持续发展的良性循环。

哈尔滨学院的小学教育系在培育教师的过程中，也彰显了可持续发展的理念。首先，孩子是社会发展的未来，学院凸显儿童本位，关注每名学生的发展，培养具有“童心素养”的“能教、善教、乐教”的小学教师。其次，为适应社会发展和地方需求，解决教师资源短缺的问题，学校着力培养“一专多能型”教师，同时也为“跨学科发展”的教育新观念做好相应的准备。最后，为了使教师更好地适应真实的课堂环境，学院坚持全程实践，构建了四位一体人才培养模式，通过建立“G-U-S”教师教育联盟、与当地小学成立合作工作室、建设附属小学、邀请一些经验丰富的一线教师为师范生授课等方式，推进地方政府、高校和小学联合培养教师教育人才。强化研习、见习、实习相结合，构建并实施“综合培养，发展专长，全程实践，协同育人”的人才培养模式，更好地服务于地方基础教育。

**关键词：**双五百工程；顶岗支教；一专多能；特色路径

## 子供の健やかな成長を目指した学校と地域の連携・協働の推進

### —「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて—

北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援係主査 松浦 賢一(Kenichi MACHUURA)

#### 1. はじめに

2020 年度からスタートした新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を図ることが重視されている。各学校においては、この理念に基づき、児童生徒や地域の実情に応じて、学校として目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、その連携及び協働のもとに教育活動を充実させていくことが求められている。

また、2015 年 12 月の中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」では、これからの公立学校は地域とともにある学校へと転換し、地域との連携・協働体制を持続可能なものとしていくことが不可欠であり、今後、全ての公立学校において、地域住民や保護者等が学校運営に参画する仕組みとして、学校運営協議会制度を導入した学校を目指すべきであると示されている。

#### 2. コミュニティ・スクール

学校運営協議会制度を導入した学校のことをコミュニティ・スクール（以下、CS）と呼ぶ。学校運営協議会は、教育課程の編成等を含む、校長が作成する基本方針の承認を行う権限を有する合議体であり、協議会が機能することで、保護者や地域住民等の意見を学校運営に反映し、目指すところを対等な立場で共有することができる。そのため、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた連携・協働による取組を効果的かつ計画的に進めることができる。

2019 年 5 月現在、全国の公立小・中学校と義務教育学校における CS の導入率は 23.7%であり、北海道では 41.8%となっている。国は、2022 年度までに、全ての公立学校において CS を導入されることを目指している。

#### 3. 地域学校協働活動

文部科学省では、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」と学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の一体的な実施を推進している。

地域学校協働活動とは、地域住民、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動で、地域の創生につながっていくことが期待される。

例えば、子供たちが地域に出て行って郷土学習を行ったり、地域住民と共に地域課題を解決したり、地域の行事に参画して共に地域づくりに関わるといった活動が挙げられる。

2018 年に文部科学省が示した「学校を核とした地域力強化プラン」においては、地域学校協働活動を進めることが、学校が「地域に開かれた教育課程」を展開することにつながり、それが地域の住民が学校と「子供の未来像＝地域の未来像」を共有することになり、さらに「住民の地域社会への積極的な参画」につながるとしている。

北海道上士幌町では、町内全ての小・中学校に CS を導入し、地域の企業やサークル等の地域住民による地域創造協働組織「『ゆめ育』応援団」を組織し、「子供たちと一緒に学ぶ」、「学校とともに

に地域を創る」という考えの下、学校と地域住民等が連携・協働した特色ある教育活動を展開している。

#### 4. 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

北海道教育委員会では、「地域と学校の連携推進協議会」を実施するなどして、持続可能な体制の構築・整備に向けた支援に努めるとともに、地域の実情に応じた体制整備に関わる活動事例等を収集・発信するなどしている。

今後、学校は「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域との連携・協働を一層進めていくとともに、地域においても、子供たちの成長を支える活動に、より主体的に参画していくことが求められる。

子供たちの生きる力は、学校だけで育まれるものではなく、家庭における教育はもちろんのこと、多様な人々と関わり様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、地域社会とのつながりや信頼できる大人との多くの関わりを通して、子供たちは心豊かにたくましく成長していく。

地域住民や企業、NPOなど様々な専門知識・能力を持った地域人材が関わることで、将来を生き抜く子供たちに実社会に裏打ちされた幅広い知識・能力の育成を目指したい。

## 如何推进儿童健康成长的学校与社区的协作关系

### —为了实现开放性的教育课程—

北海道教育厅学校教育局义务教育课儿童支援主査 松浦 贤一(Kenichi MATSUURA)

#### 1. 背景

从 2020 年开始实施的新学习指导要领中，强调学校与社会共享“通过更好的学校教育来创建更好的社会”这一理念，学校和社会共同努力，合作实现“社会公开教育”。这有利于培养未来开创者的资质与能力。各个学校基于这个理念，根据学生和社区的实际情况，与家庭和社区共享学校应追求的理想的教育状态，通过共同努力与合作来充实教育活动。

同时，在 2015 年 12 月中央教育审议会报告“为了实现新时代教育和地方创生，学校和社区合作的理想状态和今后的推进方案”中表示，今后公立学校将和社区携手改建学校，学校与社区的可持续合作体制必不可少。今后，全部的公立学校都应以导入学校运营协商会体制为目标，让社区居民和监护人参与到学校运营中。

#### 2. 社区社会学校

导入了学校运营协商会制度的学校被称为社区社会学校。校长制作包含编排教育课程在内的基本方针，而学校运营协商会有承认基本方针的权限。协商会的作用是使监护人和社区居民的意见反应到学校运营中，使学校和社区在对等的立场上共享目标。从而有计划有效率的推进“社会公开教育”的实现。

截止到 2019 年 5 月现在，全国的公立中小学校和义务教育学校的社区社会学校实现率为 23.7%，北海道为 41.8%。截止到 2022 年，国家计划实现所有的公立学校都成为社区社会学校。

#### 3. 社区学校合作活动

文部科学省正在推进“社区社会学校”与“社区学校合作活动”的一体化实施。“社区社会学校”是指学校与社区居民等合力进行学校运营。“社区学校合作活动”是指学校和社区作为合作伙伴举行活动。

社区学校合作活动是指社区居民、大学生、监护人、家长联合会、非营利组织、民企、团体机构等广泛社区居民参与活动，社区整体援助孩子们的学习与成长的同时，计划以学校为中心的社区建设。学校与社区携手举办各种各样的活动，增强社区的创生。

例如孩子们走出社区普及乡土教育，与社区居民一起解决社区问题，参加社区的活动一起建设社区等等都是社区学校合作活动。

2018 年文部科学省“以学校为中心强化社区能力计划书”中指示，推进社区学校合作活动有利于学校开展“社区公开教育”，社区居民与学校共享“孩子们的未来=社区的未来”理念，有利于“居民积极参与社区社会”。

北海道上士幌町内的全部中小学校都实现了社区社会学校，社区企业和兴趣小组等社区居民组织了社区创造合作组织“育梦”声援团，基于“和孩子们一起学习”“和学校一起建设社区”等想法，学校和社区居民正在携手一道，开展有特色的教育活动。

#### 4. 为了实现“社会公开教育”

北海道教育委员会实施了“社区与学校的联合推进协商会”，力在构筑整顿可持续的体制。同时收集并传达关于基于社区实情整顿体制的活动事例。

今后，为实现“社会公开教育”，学校将进一步加强与社区的合作。同时也要求社区更加主动地参与到帮助孩子们成长的活动中。

孩子们的生存力不仅在学校培养，家庭教育也同样重要。除此之外，和各种各样的人打交道，积攒各种各样的经验也对培养孩子们的生存力至关重要。通过社区社会的关联和与可信赖的大人的交往，孩子们心胸宽阔茁壮成长。

通过和社区居民、企业、非营利组织等等各种各样有着专业知识、能力的社区人材相交往，意在培养孩子们丰富的知识、能力，将来不管遇到什么样的挫折，都可以战胜困难活下去。

(创价大学教育学院 4 年级 董 玉 翻译)